

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 上越教育大学附属小学校・校長

氏 名 清水 雅之

研究期間 令和2年度～令和3年度

研究プロジェクトの名称	自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校 ～子どもの「問い」が立ちあがる教育活動～
研究プロジェクトの概要	<p>今を大切に生きながら社会の変化とかわる自分をつくり、新しい考え方で困難な時代を切り拓く子どもの姿を思い描き、「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」を研究主題とする第11期教育課程開発研究を立ち上げた。</p> <p>自分をつくり未来を拓く子どもの具体を探る中で、自身の思いや願いの実現、社会の矛盾や価値の対立の解決に向かって創造的に思考したり行為したりする姿を、子どもの「問い」が立ちあがる姿ととらえた。子どもの「問い」が立ちあがる教育活動をつくること、「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」の具現につながると考えた。</p> <p>子どもの「問い」が立ちあがる姿を明らかにしながら、子どもの「問い」が立ちあがる教育活動の要件を探っていく。さらには、4つの教育活動の意義や在り方を整理し、自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校を具現する教育課程を開発していく。</p>
<b>研究 成 果 の 概 要</b>  ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>子どもが潜在意識を言語化することを通して論理がつくられ、共有できる事実に対して共感、違和感、反感、予感のいずれか、または複数をはたらかせながら論理を更新、再構成しようとするときに、子どもの「問い」が立ちあがることを見いだした。</p> <p>①共有できる事実で共感して、論理を更新する          ②共有できる事実への違和感を解消しようとして、論理を再構成する          ③共有できる事実で反感を抱きながらも乗り越えようとして、論理を再構成する          ④共有できる事実から予感したことを実現しようとして、論理を更新、再構成する</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の理論や実践を掲載した研究書籍「子どもの『問い』が立ちあがる」を、令和3年3月31日に学事出版より全国出版した。</li> <li>・2021年11月19日（金）に研究会を開催した。コロナ禍における新しい研究発信の在り方を模索し、ハイブリッド方式での研究成果発表とした。事前に13の活動公開動画撮影に併せて活動公開を行い、11月19日には、オンラインによる協議会および講演会を開催し、417名の参加者に附属小学校の研究成果について発信することができた。また、当日ライブ配信した「講演会」について、当校HPに掲載した。300人以上の視聴があり、さらに当校の研究について発信している。</li> </ul>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>研究書籍「子どもの『問い』が立ちあがる」や機関誌「教育創造」、ホームページ、活動公開等において、当校の教育課程のよさを広く伝えていく。また、上越教育大学の学部生・院生等に対する講義にも当校の職員が講師として授業に参画し、子どもが育つ教育課程の実際を示していく。</p>

【提出期限】 令和4年3月31日（木）：厳守